



きよくり news

CONTENTS

- ・子宮頸がん予防ワクチン
2価・4 価どちらを選びますか
- ・公私ともに振り返るきっかけに
なりました
- ・新スタッフ紹介



Muraguchi Kiyokuri Women's Clinic

子宮頸がん予防ワクチン 第2報 ～2 価と4 価、どちらを選びますか～

村口きよ女性クリニック院長 村口喜代

わが国で2009年に認可され接種が始まったワクチンは、子宮頸がんの原因ヒトパピローマウイルス (HPV) の16,18型を予防する2価ワクチンでした。その後2011年に、16,18型に加え、尖圭コンジローマの原因ウイルスである6,11型も予防できる4価ワクチンが認可されました。これら二つのワクチンの違いをまとめて解説いたします。

- ・どちらも、とくに悪性度の高い16,18型 HPV の感染を予防するワクチンです。
- ・若い女性ではこのタイプが70～80%を占め、全女性でも約70%を占めています。
- ・ワクチンの構造は、DNA ゲノムがない非感染性粒子（殻だけの偽 HPV）とアジュバントを用いた免疫増強剤から構成されます。二つのワクチンはアジュバントが異なります。
- ・ワクチン接種後（4年後までのデータ）の HPV16,18に対する血中の抗体価は、2価ワクチンが4価ワクチンより有意に高く、長期間持続するとのデータがあります。その差はアジュバントによる免疫応答の違いといわれます。
- ・血中の抗体価が高ければ、頸管 - 陰分泌液中の抗体価も高くなることが知られており、2価ワクチンでは、約20年間は子宮頸がん予防効果が期待できるといわれます。
- ・実際は16,18型以外の型の HPV に対しても交差予防効果（クロスプロテクション効果）、つまり” “ボーナス” があるということです。HPV16型は31型や33型と、18型は45型と近縁であるため、” ボーナス “効果が期待できるのです。2価ワクチンのほうが交差予防効果はより高いとの結果です。
- ・子宮頸癌のタイプ（組織型）は多くが扁平上皮癌ですが、他に腺癌があります。腺癌は診断しにくく、治療しにくい癌ですが、2価ワクチンは腺癌にも交差予防効果が期待できます。
- ・4価ワクチンは尖圭コンジローマに対しても予防効果があります。オーストラリアでは2007年から100%国費負担によるワクチン接種が実施され、尖圭コンジローマの発生が4年間で約4分の1にまで減少しました。

主要国における子宮頸がん予防ワクチン（推奨と公費負担の状況 2010年）

国名	優先対象年齢	キャッチアップ接種対象	公費負担状況	対象ワクチン
オーストラリア	12～13歳女子 学校での接種	13～18歳女子学生、19～26歳 の女性（2年間のキャンペーン）	全額公費負担 （12～26歳）	サーバリックス・ ガーダシル
アメリカ	11～12歳女子	9～10歳女子（医師が必要と判断した 場合）、13～26歳の女性（すでに 性交渉の経験がある女性、ハップテ ストで異常が認められた女性、免疫 性HPVに感染している女性を含む）	公費負担あり※（接種に対 し、テキサス、バージニア州 などいくつかの州）	サーバリックス・ ガーダシル
イギリス	12～13歳女子	18歳まで（2年間のキャンペーン）	全額公費負担 （12～18歳）	サーバリックス・ ガーダシル
イタリア	12歳女子	地方自治体によって違う （ほとんどが13歳）	全額公費負担 （12歳）	サーバリックス・ ガーダシル
フランス	14歳女子	18～23歳（性交渉前か初交から 1年以内の女性）	国民医療保険で65%カ バーされる（14～23歳）	サーバリックス・ ガーダシル
スペイン	14歳女子	なし	全額公費負担 （14歳）	サーバリックス・ ガーダシル
ノルウェー	11～12歳女子	13～16歳女子	全額公費負担 （11～16歳）	サーバリックス・ ガーダシル
ドイツ	12～17歳女子	なし	医療保険から全額償還さ れる（12～17歳） 2007年度に制度変更	サーバリックス・ ガーダシル
オランダ	12歳女子	13～16歳	全額公費負担 （12～16歳）	サーバリックス・ ガーダシル
デンマーク	12歳女子	13～15歳女子	全額公費負担 （12～15歳）	サーバリックス・ ガーダシル

どちらのワクチンを選ぶかは、

性交未経験かどうか、年齢、性的に活
発かどうか、自身の性行動を振り返り感
染リスクはどうか、・・・を考えてご自分
で決めていただくことです。ご心配な方は、
担当医師とご相談ください。

多くの国々では、二つのワクチンを認可している
流れにあります。

※ 第1報はきよくりNEWS vol.10 に掲載しており
ます。ご希望の方は受付までお声掛けください。

公私ともに振り返るきっかけになりました

～思春期保健セミナーに参加して～

看護主任 小林美和子



昨年の夏から今年の1月にかけて2泊3日で3回にわたり「思春期保健セミナー（日本家族計画協会主催）」が開催されました。当院からは助産師の宮本さんと私が参加しましたが、全国から医療従事者や養護教諭、教諭など思春期保健にかかわる人々が、大勢集まっていました。当院にも時々思春期の患者さんが来院されますが、このセミナーを通じて、改めて思春期時代の若者に接する難しさを実感しました。

3日間先生方の講義を朝から夕方まで聴き、久しぶりに学生に戻ったようでとても新鮮な気持ちになりました。参加者の年齢層も幅広く、たくさんの方々と交流が持て、とてもいい経験になりました。

セミナーはⅠ～Ⅲまであり、コースⅠ（東京）では、基礎知識の学習。コースⅡ（横浜）では、相談に対して的確な答えを導き出すためのより深い知識の学習。コースⅢ（成田）では、Ⅰ、Ⅱで得た知識を実践にいかせるよう、実習やロールプレイングなどを行いました。私が一番印象に残っているのが、コースⅢでの成田で過ごした3日間です。

ホテルでは3日間ほぼ缶詰状態で、部屋割りもセミナーの主催者側が決めたもので、初対面の方と同室になり驚くことばかりでした。初日の夕食は、交流会ということでテーブル席もくじ引きで決まり、お酒が入ったことも手伝ってとても和やかで楽しい時間を過ごしました。2日目は、担当の講師の先生から出された課題をもとに数人のグループに分かれ、1) 状況設定（場所）、2) 登場人物、3) ストーリー、役割を決めロールプレイングを行いグループごとに発表するというものでした。私たちのグループの課題は「中、高校生での妊娠した女性への対応」であり、限られた時間の中で活発に討論することができました。緊張もしましたが、貴重な経験ができ、振り返るととても楽しんでいて自分がいました（笑）・・・。

思春期は、子どもから大人への移行期で性的成熟への成長と精神的自立および経済面での相対的自立への時期です。近年では、性交渉の開始年齢の低下や結婚年齢の上昇、不特定多数と性関係を結びやすい若者も増加しています。そして望まない妊娠での中絶ということもあります。インターネットの普及で多くの情報が飛び交う中で、誤った情報も少なくありません。思春期の若者が性行動を起こす前に、避妊や性感染症の予防について正確な情報提供の必要性を改めて感じました。

余談ではありますが、私にももう少しで思春期を迎える息子がいます。忙しさにかまけて、息子に接する時間が少なく、自分に余裕が持てないため気付けばいつも怒ってばかり、ゆっくり話したいと思っているのに・・・と、いつも自己嫌悪に陥ってしまいます。今回、思春期保健セミナーに参加したことで今までの自分も振り返れたような気がしました。

新スタッフ紹介

看護師 小野真理子（おの まりこ）



体調を崩し「きよくり」から離れておりましたが、約1年半ぶりに復帰いたしました。ひとりでも多くの女性が「自分の体を知る大切さ」を実感され、より自分らしく生きられるようお手伝いできればと思っております。日々自己研鑽に努め、皆様と共に考え“様々な想いに寄り添い”笑顔と心のほえみを絶やさずいたいと思っております。些細なことでも遠慮せず、お気軽にお声をおかけください。

臨時休診

現在、休診の予定はございません。

編集後記

風薫る5月、新緑も美しいこの季節ですが「爽やかなこの風にも放射性物質は混ざっているんだろうなあ…」なんて考える寂しい現実があります。それぞれの季節を安心して楽しめるようになる日を心待ちにしています。

とはいえ、みなさまどうぞ素敵なGWをご満喫ください ☺



発行元：村口きよ女性クリニック
<http://www.muraguchikiyo-wclinic.or.jp>
 e-mail: con@muraguchikiyo-wclinic.or.jp